



NOAH NEWS

2020年1月号 Vol.12

編集者 掛橋



皆さんこんにちは。
明けましておめでとうございます。
令和になって初めてのお正月でしたが、皆さんどのようにお過ごしでしたか？
今年1年、ワンちゃんネコちゃん、また飼い主様が健康にいられるようスタッフ一同願っております☆
さて、今回は「肛門腺」についてのお話です。
健康管理の一つとして肛門腺絞りがあります。

病気を未然に防ぐためにも定期的な肛門腺絞りが必要です。
初めて知った、なかなか上手く絞れないという方は私たちと一緒に練習してみませんか？
ぜひご相談下さい♪

肛門腺って何だろう？



肛門の左右1つずつに肛門嚢という袋があります。
袋の中には肛門腺という分泌腺から出される分泌液が入っています。

この分泌液はとても臭く、お互いの挨拶や縄張りなど個体を識別するためにあります。

大型犬は排便時に自力で分泌液を排出することが出来るのですが、小型犬や中型犬、肥満や高齢になると、自力で排出することが出来ないワンちゃんが多いです。
分泌液が溜りやすい、溜りにくいといった個体差はありますが、**絞る目安は月1~2回程度**です。

※分泌液が貯まりすぎると**炎症や肛門嚢破裂**を起こしてしまうケースもあります。



ネコちゃんの場合はほとんど絞る必要が無い場合が多いですが、まれに肛門嚢破裂を起こしてしまう事もあります。



肛門腺の絞り方



まず尻尾を真上にピンと持ち上げます。
肛門嚢は肛門を時計の中心に例えると4時と8時の位置にあります。

親指と人差し指を置いて**肛門に向かって肛門嚢を下から押し上げるイメージで絞ります。**

絞るときは爪を立てずに指の腹を使って絞りましょう。

肛門腺は勢いよく出てくることもあるのでのぞき込みは要注意！

ティッシュを当てて絞るか、シャンプー時に絞りそのまま洗い流すのがオススメです。



床にお尻をこすりつける、お尻を気にしてなめる行動をしたら分泌液が溜っている可能性があります。

また分泌液の色が緑色、頻繁に絞っているのにすぐ溜まる、出血があるという場合は細菌感染や炎症などが考えられます。

無理をせず病院へご相談下さい。



肛門腺絞りは当院又は2F バレーナでも可能です。
どちらも事前予約が必要となりますので、来院される際にご連絡をお願いいたします。